

平成19年西東京市教育委員会第12回定例会会議録

- 1 日 時 平成19年12月25日(火)
開会 午後2時01分 閉会 午後2時27分
- 2 場 所 防災センター6階 講座室2
- 3 付議事件 別紙議事日程のとおり
- 4 出席委員 委 員 長 竹 尾 格
委員長職務代理者 角 田 富美子
委 員 宮 田 清 蔵
委 員 沼 本 禧 一
教 育 長 宮 崎 美代子
- 5 出席職員 教 育 部 長 名古屋 幸 男
特 命 担 当 部 長 村 野 正 男
教 育 企 画 課 長 青 柳 昌 一
教育部副参与兼学校運営課長 富 田 和 明
教育部副参与兼教育指導課長 大 町 洋
統 括 指 導 主 事 石 井 卓 之
指 導 主 事 小 坂 和 弘
指 導 主 事 渡 邊 重 幸
教育部副参与兼教育相談担当課長 長 澤 和 子
教育部副参与兼社会教育課長 波 方 幹 徳
ス ポ ー ツ 振 興 課 長 東 原 隆
公 民 館 長 相 原 昇
教育部副参与兼図書館長 小 池 博
- 6 事務局 教育企画課企画調整係長 白 井 清 美
教育企画課企画調整係主査 清 水 達 美
- 7 傍聴人 1人

平成19年西東京市教育委員会第12回定例会議事日程

日 時 平成19年12月25日（火） 午後 2 時00分～

会 場 防災センター 6 階 講座室 2

第 1 会議録署名委員の指名

第 2 報 告 事 項 (1) 西東京市特別職報酬等審議会への諮問及びその答申について
(2) 平成19年度全国学力・学習状況調査結果

第 3 そ の 他

西東京市教育委員会会議録

平成19年第12回定例会
(12月25日)

午 後 2 時 0 1 分 開 会

議事の経過

竹尾委員長 ただいまから平成19年西東京市教育委員会第12回定例会を開会いたします。
これより直ちに本日の会議を開きます。

日程第1 会議録署名委員の指名を行います。本日は角田委員をお願いいたします。

竹尾委員長 本日は議事案件がございませんので、日程第2 報告事項、に入ります。

それでは、報告事項について、説明をお願いいたします。

報告事項の最初に、西東京市特別職報酬等審議会への諮問及びその答申についてを議題といたします。

名古屋教育部長 それでは、私のほうから、西東京市特別職報酬等審議会への諮問及びその答申につきまして、市長より通知がございましたので、御報告申し上げます。

まず1点目でございますけれども、本市の市長等の特別職報酬等につきましては、合併時平成13年1月21日でございますけれども、そのときに調整が図られたまま、この間、一度も見直しを実施していないということで、現行の報酬額につきまして、現在の社会経済情勢に照らしまして、適正なものとなっているかどうかを検証する必要があるということで、当審議会のほうに諮問した内容でございます。

またさらに、追加ということで、平成19年度の人事委員会勧告、また東京都の人事委員会勧告に基づきまして、年間賞与につきまして、支給割合が4.45月から4.50月に0.05分の引き上げがなされる見通しということで、あわせて特別職等報酬審議会に諮問したものでございます。

資料をお手元のほうに配ってございますので、詳細につきましては省略させていただきますけれども、答申につきましては、人事委員会勧告によりまず一般職等の給与に連動させた期末手当の改正につきましては、本人事委員会の勧告を踏まえて、これを引き上げることとするといった結論内容でございます。

また、報酬につきましては、お手元の資料のほうに、答申内容のほうに記載してございますけれども、市長ほか各議員含めて報酬をアップするというところで、実施時期につきましては平成20年度からすることが妥当であろうといったことで答申をいただいているといった内容になってございます。

本件につきましては、既に終了してございますけれども、平成19年第4回定例会 12月の議会でございますけれども、12月議会に条例を提案いたしまして、可決をいただいているところでございます。

簡単でございますけれども、以上でございます。

竹尾委員長 本日、報告事項は2件でございますが、次の学力調査とは性格が違いますので、この1件について御質問等がございましたら、 特にございませんか。

では、西東京市特別職報酬等審議会への諮問及びその答申については、ただいまの報告どおり承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

竹尾委員長 では、そういうことにさせていただきます。

次に、本日の議題でございます平成19年度全国学力・学習状況調査結果についての御報告を求めます。

石井統括指導主事 それでは、お配りしてあります資料をもとにお話をさせていただきます。

平成19年4月24日（火曜日）に実施いたしました平成19年度全国学力・学習状況調査の結果について御報告いたします。

お手元の資料1、調査の概要を御覧ください。

調査の対象は、小学校第六学年、中学校第三学年です。

教科に関しましては、主として「知識」に関する問題である国語A、算数・数学Aと、主として「活用」に関する問題である国語B、算数・数学Bが実施されました。あわせて、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査も実施されました。

学力につきましては、次のページでございます「3 調査結果の概要」を御覧ください。小中学校とも全国及び東京都の平均を上回っております。

平均正答率に関しましては、小学校におきましては国語B、算数B、中学校におきましては数学Bが70%に達せず、課題が残りました。

学力調査の分析と考察の詳細につきましては、小中学校ともそれぞれ8ページにわたって記述しております。

生活習慣や学習環境につきましては、特徴的な点についてまとめております。

まず、各教科の「勉強が好きですか」という設問に対しまして、「好き又はどちらかといえば好き」と回答した児童・生徒は、都と比較いたしまして、小学校の国語が1.5ポイント上回りましたが、それ以外は下回っております。関心・意欲・態度面での課題が見られました。

また、各教科の授業内容がよく分かるかという設問に対しましては、「よく分かる」または「どちらかといえば分かる」と回答した児童・生徒は、都と比較して、小学校の国語で上回りましたが、中学校の国語では下回りました。小学校の算数は下回るが、中学校の数学で上回るといように、校種や教科による差が大きい現状がございました。

平日の学習時間につきましては、小中学校とも1時間以上学習するという児童・生徒は都の平均を上回っております。また、家や図書館で1日に30分以上読書をする児童・生徒も都の平均を上回っております。これらの成果が学力面にも表れていると考えられます。

また、学力と高い相関関係がある「朝食を毎日食べる、学校に持っていくものを前日かその日の朝に確かめる」という設問に対しても都の平均を上回っており、学力面に表れていると考えられます。

課題といたしましては、「今住んでいる地域が好き」という設問に対しましては、「好き又はどちらか」というと好き」ではほぼ都の平均と同じですが、「好き」だけで比較いたしますと、小学校で3ポイント程度、中学校で6ポイント程度下回っております。また、今住んでいる「地域の行事に参加している」という設問に対する回答は、5ポイント程度下回っております。日本の伝統文化に対する理解の基本が地域に対する愛着であることを考えますと、今後の大きな課題であると考えます。

次に、各学校における本データの活用についてですが、各学校では既に授業改善推進プランを作成しております。本調査の分析、考察については、他校との序列化に配慮しながら、説明責任を果たすために学校の判断で公表しております。

また、本調査を受けました授業改善推進プランの修正点につきましても、1月18日までに教育指導課に報告していただく予定であります。

公開については、都の児童・生徒の学力向上を図るための調査同様、現在お手元にご覧いただけますものを市のホームページ及び情報公開コーナーにて閲覧できるように進めております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。ただいまから今の報告事項につきまして、一括して質疑を行いたいと思います。御質問がありましたらどうぞ。御意見でも結構でございますが。

宮田委員 学習に対する関心・意欲・態度で、まちまちなんですけど、これは平均をするというよりも、先生によって随分変わるんじゃないかというふうに思うんですね。

それで、だから、悪い先生は悪いということではなくて、よく分からないんだったら教え方の研修をそういう方にさせていただくとか、個別的な研修をしないと、いつまでたってもこういうふうにトータルで多少都よりいいとか悪いとかというだけでは実際に効率が上がらないような気がするんですけど、研修についていかがでしょうか。どうお考えでしょうか。

石井統括指導主事 まず、今、委員が御指摘のとおり、それぞれの学校が自校のデータを持っておりますので、それにつきまして、この関心・意欲・態度についても検証しております。それをもとに学校としてまず研修をするのが第1段階だと思っております。

第2段階といたしまして、教育委員会でも今夏に教科研修を中心に充実させているところでございます。

以上でございます。

宮田委員 各学校ではその先生を個別的に研修するようなことをやっているということでは理解してよろしいんでしょうか。

石井統括指導主事 この担当学年というのは、もちろんそれにかかわると思うんですけど、それ以前の学習も同じような傾向があると思いますので、特別の先生というよりは、その学校の傾向として研修を進めていると考えております。

大町教育指導課長 それにつけ加えまして、各学校では、校長が全教員を個別に年に3回、その研修のプランに基づいて面接をしております。その面接をしていく中で、受けていく研修であるとか、校内での課題、そういったものも話をしていく中で、こういった資料も十分に活用していきたいと考えております。

宮田委員 私は、これはかなり個別なことだと思うんですね。先生としては一生懸命やっても、子どもたちとしてわかりにくいこともあると思うんですね。そういうことを正しく認識して、その人たち、そういう先生をきちんとトレーニングしてあげることが、その先生のためにもいいと思うんですよ、子どもだけではなくてね。そういう学校全体で悪いからと、責任というふうなことを別に問いかけるわけではなくて、個々の先生が自分の思ったことを正しく子どもたちに伝えられて、また子どもたちが学習意欲を出すようにできるというのはある種のテクニックも必要だと思うので、私は是非、そういう研修は、市全体でいいですか

ら、個別的にそういう先生を選んできて研修をさせるようなプランニングをしたほうがそのうち実効、効果があるんじゃないかという気がするんですが、いかがでしょうか。

石井統括指導主事 今御指摘のとおりのことがあると思います。

それから、今、教育指導課長のほうでお話をさせていただきましたが、各学校で自己申告に伴う授業観察が年間最低3回以上実施されておりますので、校長からの個別の研修はそこでなされていると思います。今後、東京都でもBSU研修(Basic Skill Up研修)というのが実施されておりますので、本市においてもこの課題を踏まえながら研修を考えていきたいと思ひます。

宮田委員 校長さんが個別にとっても、1対1でテクニックを教えるより、それはきっと悩みだとか、そういうことを教えてあげるには校長さんでいいと思いますが、必ずしも校長さんだってスキルがあるとは限らないと思うんですね。ですから、それは、そういう専門家をお呼びになって、西東京市全体である程度ピックアップして、ローテーションしてもいいと思うんですが、全体のスキルアップをするようなことを、特別予算、来年度からとってやるということも是非お考えいただきたいと思ひます。

竹尾委員長 教育委員会事務局といたしましては、決意のほどはいかがですか。

大町教育指導課長 今、委員御指摘のとおりだと私どもも考えております。校長が直接指導できる場合とできない場合もございますので、ただ、校長がその教員の不得手な部分をしっかり把握して、市なり、それから都なりの研修にきちんとこの研修に行きなさいとしっかり指導することも大事だと考えておりますので、それも踏まえまして学校を指導していきたいと思ひます。

角田委員 この観点別の課題と教科書との関係というのはどうなのかなと思ひたのですが、例えば学力が高いところの使っている教科書とここでやっている課題として残っている教科書とのそういった関係はない……。教科書と学力との関係はどうかというのをちょっと聞きたかった。

石井統括指導主事 教科書に関しましては、市内が同じ教科書を使っている関係がございまして、他区市との比較がちょっとできないもので、今、この教科書だからこうというようなお答えは、申しわけございませんが、できない状況でございます。

角田委員 またそのうち教科書が変わってくるというか、そんなときが来ますので、ちょっと気になりました。ですから、今後もやはりこういったことがきちんと、こういう課題がうまくクリアできるような、そういった教科書を選定していかなくちゃいけないのかなというふうに思ひたものですから、よろしくお願ひします。

竹尾委員長 ほかに何かございませうか。

沼本委員 3点あるんですけども、一つは、この結果について、この近隣の市と比較したときに、例えば生活習慣とか食生活とかありますけれども、かなり違いがあるような項目というのはあるかどうかというのが一つ。

それからもう一つは、宮田委員からの研修の話がありましたけれども、西東京の教育委員会としても、この結果を踏まえて、要するに市としての課題があるわけで、その課題に対応する研修会、例えば初任者研修といひても大体もういつも決まったパターンなんですけれど

も、要するにこの結果を踏まえた、それに対応するような研修会というのを是非来年心がけてほしいなということ。

もう一つは、この結果が出てそれぞれの学校が授業改善プラン等を行っているわけですが、来年度の教育課程の中で、西東京市として、この課題を踏まえた指導の重点というのと、こういうふうな結果に基づいて指導の重点に書き加えるというか、加えていくことが大事ではないかなと思います。

竹尾委員長 御意見ありますか。

石井統括指導主事 まず、1点目からお答えいたします。近隣市というお話がございましたが、今回のこの文科省の学力・学習状況調査に関しましては、本市に対しましては全国と東京都の平均、それから本市のデータしかございませんので、近隣市という比較ということは、現状としてはできない状況でございます。

2点目につきましては、委員御指摘のとおり、これから夏の研修については現状、それから各調査の結果も踏まえながら研修を組み立ててまいりますので、反映をさせていきたいと思えます。

それから、3点目の教育課程の指導の重点ということにつきましては、各学校は授業改善推進プランを作成して研修しておりますので、それが教育課程に反映させるようには、これから教育課程説明会におきまして、お話をしていきたいと考えております。

以上でございます。

竹尾委員長 ほかにございますでしょうか。

宮田委員 でも、近隣市だったら、西東京市はわかるわけですから、三鷹市とか、武蔵野市の教育委員会へ電話すればわかることだと思うんですね。だから、もしある程度のあるこの市の、仮想敵国じゃないんですが、ターゲットみたいにして、いつでもそこと比べて、例えば武蔵野市なんてすごく住んでいる方の意識も高いと思うんですね。住んでいてよかったという回答がきっとここより多いのではないかと思うわけでありまして。そうすると、なぜ多いのかとか、検討していただくことも必要ではないかと思うんです。ただ、国のとか都のを待っていたらおっしゃるとおり、受け身だとデータがないからわからないということだと思うんですが、もしそういうことを積極的にお考えになるならば、近くですからきっと顔見知りでもあると思えますので、電話で問い合わせるとか、ファクスで送ってもらうとか、その程度はお互いにやり合ったらどうかと思いますが、いかがでしょうか。

竹尾委員長 ちょっとその前に、これは本市のホームページで公開していると……

石井統括指導主事 これから公開してまいります。

竹尾委員長 これから公開するんですか。それは西東京市だけですか。ほかの市もみんなやるんですか。そうすると、それでも調べられますね。

宮田委員 そうですね、自動的に。

石井統括指導主事 実は足立区の学力テストに関する問題が波及いたしまして、このデータを公開しないという市もございます。ですから、確かに委員のおっしゃるように、電話をかけまして情報を提供してくださる市もあるかもしれませんが、今のところの状況では公開しない市が多くございます。

竹尾委員長 宮田委員、いかがですか。

宮田委員 特に私が心配しているのは、学力もそうですが、それよりもやっぱり地域に対する愛着というようなものが極めて少ないということに関して心配しているわけですし、それがもし他市で多ければどうしてなのかなというのは調査事項になり得ると思うんですが、いかがでしょうか。

石井統括指導主事 今の件に関しましては、多分調査をかければ答えていただける部分もございませう。検討させていただきます。

竹尾委員長 よろしくお願ひいたします。

宮崎教育長 今回ののは、やはり日本の教育史上例がないし、非常に画期的なことだと思います。

ですので、この根拠のある改善策が非常に実施されやすくなりました。ですから、この活用がいかに大切かということでございませう。

そして、毎年これは今度はデータ化されてまいります。計測されてくるわけでございますよね。向上する学校もあるし、また停滞する学校もあると。いろいろなところがありますので、今後とも西東京市といたしましては、この指導方法が適切だったのか、家庭の勉強はどうだったのか、家庭の御指導はどうだったのか、それから地域の教育環境、学校施設、今住んでいてよかったというお話もございませうが、どうだったのか、本当にいろいろな面から分析ができると、また活用ができると。

全体的にカリキュラムや指導方法がどうなのかということは、それぞれの学校が校長を中心になって行いますけれども、今後とも教育委員会といたしましても、家庭環境、保護者、地域関係など……。学校だけに責任を押しつけるのではなく、関係機関が何ができるか、協働を考えながら、さらに、ちょっと停滞しているところは底上げをし、また努力をしているところはさらにアップするように、総合的に活用をしていきたいと思ひますので、今、委員さんたちの貴重なお話を生かしていきたいと思ひます。

以上でございます。

竹尾委員長 ほかにございませうでしょうか。

沼本委員 西東京市と沖縄とか、そういうところを比較するわけじゃなくて、近隣ですから、生活基盤はほとんど同じなわけでしょう。その中である項目だけがすごく食い違ひ。例えば上がっている場合もあるでしょうし、下がっている場合もある。そういう意味では非常に課題をとらえやすいわけなのでね、それは地域差というのはあまりないわけなんですから。そこら辺がもし落ちていればそこがやっぱり課題であって、これを何とかそれに対応する対策を立てるといふことは十分必要なことじゃないかと思ひます。

竹尾委員長 ほかに何かございませうでしょうか。

角田委員 自尊心や規範意識が高いので、安心したといふか、うれしかったです。

竹尾委員長 ほかに何かございませうでしょうか。

学力といふのは、大きく代数の法則といふか、それを見たときには、親の経済力と束になる部分があると思ひますよね。そういう点で、宮田委員が先ほど言った武蔵野市の問題とかといふことが出てくるんだらうと思ひますが、そういう中で、先生方、大変ですが、一生

懸命お願いしたいと思います。

この学力調査結果報告につきましては、よろしゅうございますか。

以上で報告事項は終わりいたします。

竹尾委員長 日程第3 その他、を議題といたします。教育委員会全般のことについて結構でございますが、御質問がございましたら。

先ほど角田委員から教科書の問題が出ましたが、今度の選定は来年ぐらいになるんですか。石井統括指導主事 次年度が小学校の教科書採択になります。それから、その次が中学校の教科書採択。それから、平成23年度から新しい教科書になりますので、それに向けての教科書採択が行われる予定でございます。

角田委員 新しい学習指導要領の骨子が出るのはいつですか。もう出たんですか。

石井統括指導主事 中間まとめに関しましては11月末に出されました。今後、予定でございますが、2月末から3月にかけて新しい学習指導要領が告示される予定であると聞いております。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

以上でその他を終わります。

以上をもちまして平成19年西東京市教育委員会第12回定例会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

午 後 2 時 2 7 分 閉 会

西東京市教育委員会会議規則第29条の規定によりここに署名する。

西東京市教育委員会委員長

署 名 委 員